

具体物を選んだり数えて取ったりする指導 ～数えやすい具体物を使った事例～			
学部・教科	小学部・算数科	事例コード	2408
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> 小学部3学年（5名） Aグループの児童2名は継続して落ち着いて着座することは難しく、教師と一緒に学習に取り組むことが多い。また、手元にあるものを口や顔などに当てて感触を確かめることが多く、物の認識の方法が限られている。徐々に、目の前に提示されたものに目を向けることや学習に繰り返し取り組むことでプットインなどの課題を理解できるようになってきた。 Bグループの児童3名は10までの数唱に取り組んだり指で数字を表したりできるようになってきた。具体物を数える際には目視で数えたり、指差しや数字カードを手掛かりに数えたりする。 		
単元(題材)名	『とれるかな』		
学習指導要領の内容	算数科／小学部1段階 A：A数量の基礎 ア 具体物にかかわる数学的活動 (ア) ⊕ (イ) ⊙ B：B数と計算 ア 数えることの基礎に関わる数学的活動 (ア) ⊕ (イ) ⊙		
単元(題材)の目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	A 身の回りのものに気付き、対応させたり、組み合わせたりすることができる。 B ものの有無や3までの数的要素に気付き、身の回りのものの数に関心をもって関わるすることができる。 【AアBア】	A 身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりするなど、数量に関心をもって関わろうとする。 B 身の回りのものの有無や数的要素に注目し、数を直感的に捉えたり、数を用いて表現したりすることができる。 【AイBイ】	A 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする。 B 数量に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする。 【AウBウ】
単元(題材)の計画	総時数6時間 (1) 「さんすうやってみよう」(10までの数唱、数字の読み方、ボール探し) 「とれるかな」(A：指差しや名称を聞いて、具体物を見る。 B：いくつかのものから1～2個取る。) 「おみせやさんごっこ」(提示された数やものを渡す) … (2時間) (2) 「さんすうやってみよう」(10までの数唱、数字の読み方、ボール探し) 「とれるかな」(A：指差しや名称を聞いて、具体物を手に取る。 B：いくつかのものから3個取る。) 「おみせやさんごっこ」(提示された数やものを渡す) … (2時間) (3) 「さんすうやってみよう」(10までの数唱、数字の読み方、ボール探し) 「とれるかな」(A：指差しや名称を聞いて、具体物を手に取る。 B：いくつかのものから1～3個取る。) 「おみせやさんごっこ」(提示された数やものを渡す) … (2時間)		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> 「○○を～個ください。」「○○をください。」などの問いを聞き、果物(リンゴ、メロン、バナナ)の中から適切なものや数を取り出す活動を行った。提示にあたっては、児童にとって身近で見た目の違いが分かりやすい果物を扱った。 <p>【Aグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指差しや名称を聞いて具体物に注目する、具体物を手に取る、と目標を段階的に設定した。 2～3枚の絵カードから教師の問いを聞き、指差されたものを見てから手を伸ばし、教師の手に渡すことができた。 平面のカードを認識することが難しい児童には、立体の果物の模型を提示した。問いを聞く前に手を伸ばすこともあるが、指差しと言葉掛けを手掛かりに手を伸ばすものを考え直すことができた。  <p>【Bグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2～3種類の具体物を5個ずつ並べた中から、「○○を～個ください。」という言葉掛けを聞いて皿に取り出す活動を設定した。 言葉掛けのみで果物と個数を正しく数えて取ることができた児童がいた。 		

* 本事例集では、学習指導要領の目標及び内容に基づいた表現に編集しています。

- ・言葉掛けのみで果物と個数を正しく数えて取ることができたが、3個の時に自信がなかった児童がいた。問いと同じ個数の果物のイラストカードを並べて、正誤を確かめるような活動を設けることで、自分が数えたものをイラストカードのそばに一対一対応で置いて確かめることができた。
- ・言葉掛け、数を指で示すなどして問い掛けると皿に数えて取り出そうとすることができたが、数唱で「1, 2, 3」と声に出した数と、取り出した数が合っていない児童がいた。問いと同じ個数の果物イラストカードを並べたものを見て、同じになるように皿に取り出すようにした（マッチングの活動となり、「数えて取り出す」活動に至っていないと思われる）。



【全体の反省】

- ・正しく取れているか確かめる方法について、教師が一方的に正誤を伝える形が多く、児童が自分で確かめたり納得したりしている様子が少なかった。問い通りのものや数を取れているのか、児童が操作して確かめる方法が必要だった。
- ・2、3の数のまとまりを理解しているかももう一度確かめ、定着をねらうことが課題。
- ・個々の活動→くだもの屋さんになって注文されたものを取り出す活動を行った。お店屋さんになること、友達の前で発表することには意欲的であった。順番を待っている児童には、取り組んでいる児童が注文されたものを取れているか聞いたり提示したりしたが、役割が少なかったため飽きが見られたり友達の活動に目を向けたりすることが継続できなかった。

(令和6年度作成)